

多様な臨床研究を支援

治療アプリ開発もフルカバー

インテージヘルスケアは、成長領域と位置づける臨床研究支援について、多様化する医療ニーズに対応すべく取り組みを進めている。特に医療機器、治療アプリの分野においては治療から上市までのフルカバーを見据えて、自社の経験値と、その分野の専門機能を持つパート

ナーと連携しながら、フレキシブルなプロジェクト体制を構築しサービスを提供している。また、リアルワールドデータ(RWD)を活用した臨床研究も着実にサービス提供の拡大を図っている。

インテージヘルスケア

臨床研究支援については製薬企業だけでなく、アカデミアからのニーズも増えているという。水尾斉臨床開発部長は、「医師らの医療現場

定臨床研究の需要は増えている。アカデミアやスタートアップ、ベンチャーなど小規模企業からのニーズに加え、AI技術を利用したアプリなどの開発の引き合いが製薬企業からも寄せられていると



中澤氏



水尾氏

て支援させていただく。限られた予算の中で効率的かつ品質基準を満たしたサービスをデザインできる」と説明する。

一連のサービスのもう一つの特徴は、モニターや薬事、ライティングなど、より専門性の高い企業やエキスパートとチームを組み、プロジェクト形式でサービスを提供することで、サービスの品質とフレキシビリティを確保しているところにある。人材や機能の全てを内製化せず、社外と連携し、業務効率化とコスト低減を図っている。

また、臨床研究支援では、RWDを活用してエビデンスを創出する臨床試験ニーズも増えている。標準的な臨床試験では得にくい情報を品質コントロールしながらデータベース化し、利活用を可能にする取り組みだ。

現在、京都大学大学院医学研究科リアルワールドデータ研究開発講座に参画し、数社の民間企業とプロジェクトを進めている。

そこで同社は、特定臨床研究から治療、実用化までのフルカバー支援体制を訴求する。

水尾氏は、「臨床研究から治療ステップを進めていくという点で、われわれの経験値を生かし

データサイエンティストの育成にも引き続き取り組む。彼らは、分析・活用スキルを生かし、アウトカムを意識した調査・研究の設計を支援している。

得意とする製造販売後調査の分野においても強化を続けている。調査の計画、プロジェクト運営、終了手続きまでリモート環境下で完遂できる自社EDCシステム「ADDIN(アディン)」、調査の小規模化に対応する「ADDIN SMART(スマー ト)」の活用も拡大しており、顧客ニーズへの対応を加速する。

執行役員の中澤克俊氏は、「多様化する臨床研究・臨床試験のニーズに

対しては、治療アプリを承認取得まで支援した臨床開発の実績や医師パネルの活用、臨床試験へのRWDの活用など、幅広い対応力や新たな取り組みを知っていただきたい。「インテージ」というリサーチ、マーケティング事業のイメージは強いが、CRO事業と融合しサービス提供の取り組みについての認知度はまだ低い。マーケティングアクセスを含む保険償還・医療経済等の機能をフル活用できれば、さらなるニーズと成長があると感じている。リサーチ・マーケティングまで含めた当社だからこそできる「気通貫」での支援で貢献していきたい」と話す。

intage 株式会社インテージヘルスケア

— 価値ある医療を社会へ

SaMD開発支援の実績を活かして、マーケットアクセスから保険償還のゴールまでデザインできるCRO



マーケットアクセス

市場調査 (市場性検証、対象患者の選定)



CRO

臨床研究 / 臨床試験・市販後調査 (承認申請、市販後エビデンス)



RWE

DB研究・DB調査 (市販後調査、疫学研究、治療実態の把握)



論文・学会

論文作成 / 学会発表 (製品の価値を示すためのエビデンス構築)



HEOR

保険償還戦略 (算定方法、医療技術評価、経済性など)

お問い合わせはこちら

